

の構築や原木サプラーチェーンの最適化、GISとマルチコプターを利用した森林情報の把握について研究しています。

こんな私のところに舞い込んできた執筆依頼ですが、演習林の思い出といわれるとやはり冬に行う雪山実習が思い出されます。東京で生まれ育った私にとっては雪と触れ合う機会がほとんどなかったため、雪上車への乗車や雪の断面観察、かまくら作りは強く印象に残っています。もともとキャンプなどのアウトドアが好きだったので、携帯の電波も届かない演習林での実習は当然ながら出席率100%でした。

もう一つ私にとって忘れられないのが演習林での炭焼きです。イチョウの側にある古びた小屋で炭焼き釜を発見したのがきっかけで、炭焼きをやってみたくて純粋な気持ちから当時の演習林長であった小野寺教授や技官の方々に頼み込み、同期や先輩とともに人生初の炭焼きをしました。この体験がきっかけとなり演習林を活動拠点とした「森の民」というグループを立ち上げました(現在はサークル化)。とにかく炭焼きが楽しかった(火遊びが楽しかった?)ので、ほぼ毎週末には演習林に行つて薪割りをしていました。当時の私の研究フィールドは海岸林でしたが、自分の調査地よりも演習林に行くことの方が多かったように思います。

「森の民」の代表が後輩へと引き継がれていくたびに活動内容も幅も広がっていききました。活動資金を確保するため

に、自分たちで作った炭を学祭や山王ナイトバザールで販売をはじめた後輩もいました。またすでに伝統のようになっていた炭焼きの他に「森の学校」の手伝いやツリーハウスを作った後輩もいました。私は修士課程へ進学した後はオペザーパーとして参加させていたのですが、その時のメンバーによつて活動内容

が変わり変幻自在に活動の幅を広げていく様はいつもワクワクするものがあり、この活動を通して素晴らしい経験をする事ができたと思います。

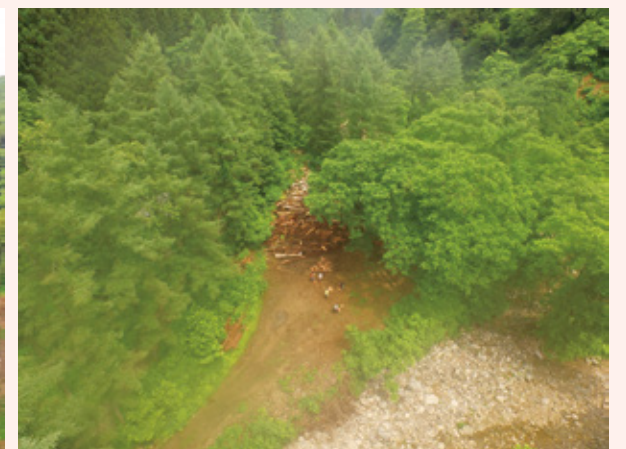
先日、研究のため演習林に宿泊させていただきました。この時「森の民」のメンバーが薪割りをしているところに偶然遭遇しました。彼らは当時の私と同じように馴れない鉞を思いっきり振りかぶつて力一杯に一生懸命に薪を割っていました。すでに「森の民」には私の知る後輩はいませんが、「炭焼きをやってみたくて」という純粋な気持ちからスタートした活動が今でも後輩に引き継がれていることがうれしかったと同時に木酢液のおいが懐かしく思い出されました。



▲演習林管理棟



▲声沢林道と大徳沢林道



▲薪割りする学生達

平成27年度山形大学農学部 学生研究支援事業について

鶴窓会副会長 齋藤 博行

(昭和45年農学科卒)

母校の発展に寄与すべく発足した本事業は平成21年から開始し、本年は7年目になります。当初計画では20課題の採択でしたが、会費納入が大幅に減少したことから採択件数の見直しが必要になってしまい、わずか4課題になってしまいました。本来は会員からの研究要望について、これに取り組んだ学生に助成する事業ですが、最近では応募がなく、農学部指導教員に研究課題選定を依頼している状況です。

昨年「鶴窓会だより」に広告掲載するようにしましたが、併せて研究要望課題も同時に申請して頂きたいものです。個人的な考えですが、広告掲載代金で支援事業を運営できれば二石二鳥の効果も期待できると思います。

また、研究支援事業の「環」として本年3月の卒業式学位授与式終了後、同会場で農学部部長表彰に次いで鶴窓会会長から成績優秀者に表彰状の贈呈を行う参加者に同窓会の学生支

援事業として紹介することができました。

本事業は、現場からの研究ニーズが特に重要ですので、勤務先や現場で話題になったことや農作業中に疑問に思ったことを研究要望として申請して下さいようお願いいたします。

鶴窓会ホームページに研究支援事業申請書様式があり、事務局では何時でもメール、ファックス、郵送等で受付しています。来年度の学生卒論課題のこともありますので早めに提出して頂ければ幸いです。

なお、会費納入者が少ないと本事業の予算確保ができない状況になりますので、母校の後輩への支援事業にご理解とご協力をよろしくお願い致します。

平成27年度山形大学農学部学生研究支援事業採択課題

(申請9件、採択4件)

1. 研究実施学生 鈴木 佑梨 (農学研究科 生物環境学専攻1年)
研究課題「スギ抽出物の藍藻類 *Microcystis aeruginosa* に対する増殖抑制効果」
2. 研究実施学生 小原 大樹 (農学研究科 生物資源学専攻1年)
研究課題「異数性モデル SOD1 遺伝子欠損マウス卵を用いた染色体異数性回復培養系の開発」
3. 研究実施学生 大場 梢 (食料生命環境学科 水士環境科学コース)
研究課題「河川形態に着目した河川環境評価手法に関する研究」
4. 研究実施学生 川上 珠恵 (食料生命環境学科 植物機能開発学コース)
研究課題「「つや姫」突然変異集団の作出と糖・デンプン代謝系突然変異体の選抜」



平成27年度春の 叙勲を拝受

北海道支部(月山会)相馬敏夫氏(昭和45年農工卒)が「北海道開発行政事務功労」により瑞宝双光章拝受の榮に浴しました。誠に慶賀なこととお祝い申し上げます。



平成27年度鶴窓会会長表彰者

- | | |
|---------------------------|-------|
| 大学院農学研究科生物生産学専攻2年 | 木村 直道 |
| 大学院農学研究科 生物資源学専攻2年 | 渡辺 連 |
| 大学院農学研究科 生物環境学専攻2年 | 南 佳織 |
| 食料生命環境学科 安全農産物生産学コース4年 | 横堀 重弥 |
| 食料生命環境学科 食農環境マネジメント学コース4年 | 山口 純実 |
| 食料生命環境学科 食品・応用生命科学コース4年 | 小原 大樹 |
| 食料生命環境学科 植物機能開発学コース4年 | 船見 真佑 |
| 食料生命環境学科 森林科学コース4年 | 榊原 幸江 |
| 食料生命環境学科 水士環境科学コース4年 | 東 陽平 |



校友会理事 鶴窓会副会長 齋藤 博行

(昭和45年農学科卒)

今年の開催は10チームで選手と関係者で1000人の参加を得て試合が行われました。晴天のもと穏やかな海はサーferと波の音と海藻の香る潮風で心地よい試合会場です。

当初計画では9月13日の予定でしたが、由良温泉観光協会のビーチサッカー試合が12日と13日の開催となったために15日に順延したものです。開催後で海辺の整備が良くなされていて、前日から由良温泉に宿泊して準備にあたった学生には好都合であったようです。

晴れ男の農学部部長夏賀元康先生、校友会副会長の長沼龍平さん、実行委員長の農学部高橋尚之さんの競技説明のあと、リーグ戦の試合開始です。

ボールを強く蹴り過ぎて海に飛び込むシーンがあるなど楽しい試合が行われました。特に注目のチームは小白川キャンパスからのTCM C.A.T.Sでアメリカンフットボールのクラブメンバーが主体で、各学部の学生と女子学生も参加しています。

昼食はおにぎりと焼肉でしたが、特に肉は例年どおり鶴岡市の長南牛肉店に手配したとのこ

とで参加学生の評判は上々です。これが楽しみでビーチサッカーに毎年参加していると話す選手もいました。ちなみに長南牛肉店は農学部後援会会長でもあります。

天気が良く暑いこともあって昼食後、海に入って遊ぶ人もいて、火照った体のクールダウンを図って午後からの試合に臨む選手もいました。

熱戦の結果、優勝は工学部の神蔵FCで準優勝は地域教育文化学部の濱田JAPANリターンズでした。

閉会式では、表彰と佐藤農二鶴窓会会長からの試合講評、校友会事務局山口茂男さんの閉会の挨拶で終了しました。



山形の卒業生が醸す日本酒
小さくても存在感のある地元に愛される地酒屋でありたい...

和酒造合資会社
代表 和田多聞 (昭和43年農芸化学科卒)

〒999-3511 西村山郡河北町谷地甲17
E-mail aratama@hinanet.ne.jp
TEL 0237-72-3105
FAX 0237-72-3598

純米吟醸 みどり樹 720ml (税込1,512円)

明治創業 百余年
鶴岡の老舗 肉の長南

- 株式会社 長南牛肉店
〈鶴岡店〉山形県鶴岡市日吉町9-27
TEL 0235-22-0143 FAX 0235-23-2424
- 株式会社 長南
〈大山店〉山形県鶴岡市大山2-23-33
TEL 0235-33-2941 FAX 0235-33-2940

【主な取り扱い商品】

- ・山形牛・米沢牛・国産牛・輸入牛・庄内豚(桜美豚)・輸入ポーク・国産鶏
- ・銘柄鶏・輸入鶏・ラム類等・自社ハム類・メーカーハム類・贈答用みそ漬
- ・粕漬・オードブル・折詰・弁当・イベント・催事用機器食材

長南 雄太(6代目) 現在、山形大学 農学部 畜産学研究室4年生でお世話になっております。



在校生の声

上名川演習林

高橋 あかり

(山形大学大学院農学研究科 生物環境学専攻森林保全学研究室修士2年)

鶴岡に住んで今年で5年目になりますが、まさかこんなに長い間、農学部にお世話になるなんて当初は思ってもみませんでした。農学部の生活の中で、私が特に力を入れてきたのは、サークル

「森の民」の活動です。「森の民」は農学部附属上名川演習林を拠点に、自分達で薪を割つての炭焼き、地域のイベントや農場新米ロックフェスでの木工クラフトブースの出店、鶴寿祭でのクルミやクワといった山の幸を使ったお菓子販売等々、森林に関わる様々な活動を行っています。

中でも特に大きな活動は、演習林に地域の子供達を招いて行う森の学校です。森の学校は夏、秋、冬の年3回行われる環境教育のイベントです。毎回学生が企画運営し、子供達に楽しみながら森林に親しんで戴いております。今年7月に行われた夏の回のテーマは「野生動物」でした。20分ほどの講義では身近にいる野生動物をクイズ形式で紹介し、その後、事前に演習林に設置しておいた自動撮影装置でどんな動物を撮影できたかを子供達と確認しました。カメラには、ノウサギ、ニホンザル、カモシカ等が写っており、普段なかなか出会うことがない野生動物でも、森林の中に確かに暮らしているというのを実感して戴けたのではないのでしょうか。今日、自然との共生が社会的な課題となっており、人が身近な自然に興味を持ち、自然と共生する社会を実現する第一歩だと思います。森の学校に参加した子供達に、これを機に自然に興味を持ってもらえたら幸いです。

「森の民」に入り5年目となった今では、いつの間にか私は一番の古株になり、参加してくれる子供たちも代替わりし、5年という歳月の長さを実感しています。その濃い月日の中で、楽しんで活動し、多くの事を学びました。山菜採りやキノコ採りを毎年楽しみにしたり、炭焼きの時は何日も泊りがけで火の番をしたり、演習林で実習がある時は、こっそり実習生に混ざりました。入山式で振舞われる山菜料理の調理や焼畑といった演習林ならではの

のお手伝いもしました。冬は雪上で演習林まで行き、雪遊びもしました。演習林はいつ行っても私を楽しませてくれます。

森林の分野で学んだ歴代の先輩方と同じように、演習林は私にとって沢山の思い出が詰まった場所であり、また大好きな場所でもあります。私が演習林に気軽に遊びに来られるのもあとわずかです。演習林がこれからも学生達の様々な活動の場であり続けられと思います。

